

屋根葺きの カネを集める伝統的首長

ミクロネシアの島嶼国家、パラオ共和国。アバイと呼ばれる伝統的集会所は、かつて首長たちが寄り合いをおこなう場であった。植民地期から国家形成期にかけて、首長たちはカネ集めに奔走する。

アバイと伝統的首長

石畳の上に建つ伝統的集会所、アバイ。パラオの伝統を体現するこの切妻造りの建築物は、奥行きが約二〇メートルもあり、破風（正面の装飾板）や梁（屋内の水平の柱）には、神話や伝説をモチーフにした彫刻、装飾が色鮮やかに施されている。

かつて、アバイには、集落の伝統的首長が寄り合いをおこなうものと、村落の若者が寝泊まりするものがあった。前者は、通常一〇人いた集落の首長たちに帰属し、首長の序列に応じて座順や使用する出入り口が定められていた。また、新築・改築する際に、首長たちがどの部分の骨組みや葺き屋根を負担するのかも、序列に応じて定められていた。

ところが、一九世紀末以降の植民地統治過程で、首長たちが寄り合いによって政治を運営する機会は失わ

れた。これに伴い、多くのアバイは消滅していった。現在では、国立博物館に移設されたものも含めて、伝統的アバイは、わずか数棟だけである。集落のアバイが新築・改築されたとしても、地方政府の資金で近代様式に建てられることが多い。それでも、伝統的首長は、近代国



屋根葺きのカネの支払いに集まった人たち

家のなかで一定の権威を保持しており、伝統文化の番人としての役割を果たすこともある。わたしはフィールドワークの最中に首長が、伝統的アバイの修繕のために、屋根葺きのカネを集める場面に居合わせた。

屋根葺きのカネ集めに参加して

二〇〇九年九月、アイライ州のある集落の首長R（七〇代、男性）から、宴への招待状がわたしのもとに届いた。この宴は、アバイの屋根の葺き替えの費用を集めるとともに、かれの自宅の改築費用を集めるために計画された。前者は、屋根を意味するパラオ語にちなんでロス、後者はハウスパーティーとよばれている。ロスは、伝統領域に属する事柄であり、他の集落の首長とともに、首長Rにも修繕の割り当てが定められた。招待状には、屋根葺きには一万一

いたかしんご
飯高伸五
日本学術振興会特別研究員PD（筑波大学）
専門は社会人類学、オセアニア民族誌学。ミクロネシアにおける植民地経験、現代の土地訴訟と伝統的知識の関係を研究テーマに、パラオでフィールドワークを実施している。



千米ドル、自宅改築には一万三千三百五〇米ドルを要したと明記されていた。この多額なカネを集めるために、氏族の成員が広く参加を求められた。首長Rと同じ氏族に属するEさん（八〇代、女性）の家に居候していたわたしは、Eさんとその娘二人とともに宴に参加することになった。宴といっても形式はほとんどなく、午前一時ころから午後三時ころまでのあいだ、ばらばらと首長Rの家に人びとが集まり、タロイモや豚肉



石畳の上に建築中の近代様式のアバイ(オギワル州)



家のなかで歓談する人たち。奥では首長が見守るなか、カネ勘定がおこなわれている

の入った弁当を受け取り、食事と会話を楽しみ、カネを支払って帰って行くというものである。首長Rは、この日のために豚を屠殺させるなど、参加者の食事の準備に追われる。支払われるカネには、パラオの通貨である米ドルと、トゥルクとよばれるべっ甲皿の伝統貨幣とが使用される。多くの参加者は、家の外に置かれた椅子やベンチに腰掛けているが、家のなかには首長Rの家族と氏族の年長女性が控えており、会計係が集まったカネを勘定している。

どれだけのカネが集まったか？

パラオでは、出産儀礼や葬儀、家の新築・改築祝など、現在では日本語からの借用語でシューカーンと総称される機会において、カネの支払いを怠るべきでないと考えられている。Eさんは、すでに夫を亡くしており、決して経済的な余裕があるとはいえない。それでも氏族のなかで最年長の女性で、首長Rとのつながりも深い。そのため、支払いの責任がある。Eさんは、現金一〇〇米ドルとべっ甲皿一枚を支払った。個人の支払いとしては、そうとう高額であった。

わたしとEさんの娘たちが支払った金額、当日はつこうで来られなかったEさんの息子から預かった金額は、いずれも二〇米ドルから四〇



支払いにあてる米ドルとべっ甲皿を確認する

米ドルであった。なかには五米ドルで支払いを済ます者もいれば、親子あるいは兄弟姉妹であわせて五〇〇米ドルも支払う者もいた。集められたカネの明細は、丹念に大学ノートに記入され、宴の終わりに首長Rに報告された。ノートは、支払いの記録として、しばらく大事に保管される。この日、個人、親子、兄弟姉妹など合計七四名義で集められたカネは、総額五七〇〇米ドルとべっ甲皿四枚にもおよんだ。この時点では、まだ必要な金額には遠くおよばなかったが、パラオの所得水準を考えれば、これは大金である。後日に支払った者や、海外から送金した者もいたので、総額はまた増えている。首長の呼びかけに応じて、着々と多額のカネが集められていったのである。

近代国家のシンボル

パラオ共和国の立法、行政、司法の各機関の公式ロゴは、どれもアバイをモチーフにしている。アバイは、

もはや首長の寄り合いの場ではなくなったが、近代国家の文化的シンボルとして重要な意味を担っている。ここで取り上げたアイライ州のアバイもまた、パラオの名所のひとつとして観光ガイドにも掲載され、国家の歴史保存プログラムでは史跡に指定されている。州政府も、アバイの修繕のために、予算を組んでいる。しかし、アバイは、なによりも集落の首長たちの財産である。だからこそ、首長Rらは、自分たちのアバイの修繕費用を、国家や州政府とはまた別の回路で、すなわち氏族の成員からカネを集めることで、なんとか賄おうと試みたのである。もともと、貨幣経済が浸透した現在では、集める側も支払う側もカネの負担は大きく、政府の援助にまったく頼らずにアバイを維持管理することは難しいだろう。伝統文化の番人である首長たちが、いかなる対応をしているのか、今後も注目したい。